

教育活動に位置付き確かな 学校改善につながる学校評価

札幌市立前田北小学校

I はじめに

確かな学校改善への 取り組み

1 本校における学校評価のねらい

本校では、学校運営のキーワードとして「前田北だから…あったかい」を掲げ、児童、保護者・地域、教職員がとことん学び合い助け合う、あったかさに満ちた学校づくりを行っている。昨年からは、よりこまやかな教育活動を求めて3期制から2期制へと移行し、子どもとのふれあいの時間の増加を求めて校務分掌組織の一人責任制の導入等、学校運営組織の改革を行ってきた。

2期制の導入にあたっては、子どもの育ちの過程を踏まえ、2期4節のステップで教育計画の編成を行い、節ごとに「知る」「動く」「創る」「ありがとう」と節を括る目標を設定し、各部門(分掌)学年ごとに具体的目標を立てて指導にあたるようにした。

この改革を確かなものにしていくためには、評価活動が適切に行われ、成果と課題を明らかにしながら、子どもや保護者・地域の方々とも課題を共有し、教育活動の成果を、子ども達の育ちゆく姿として共有していくことが大切であると考えている。

そのために、以下の点に重点を置いて学校評価の取り組みを進めていく。

- ・評価項目を具体化し、取り組みや問題点を子どもの姿として受け止め合えるようにしていくこと。
- ・これまで行われてきた評価活動の目的と方法を、学校課題の達成に向けての評価になっていたかという視点から見直し、系統立てて整理していくこと。

II 本校の学校評価システム

1 自己評価と評価委員会

本校では、一昨年より、児童とかかわる時間の充実を目指し、校務運営組織を見直すとともに、会議等の効率化を図っている。評価に関しても、特別委員会を設けず、企画教育課程検(検討事項に合わせ、校長、教頭、総務に、関係する教職員を招集し、必要に応じ開催される。)において検討している。評価の年間計画は、教務部門担当者が立案し提案される。学年や関連する部門(一人責任制)ごと、あるいは、複数部門が共同で具体化し、実施の方法・経過・結果等は節学校評価会等で報告、検討される。

2 学校関係者評価委員会

本校では、学校評議員会を母体として年間3回開催することとした。学校関係者評価委員会としての開催は本年度からである。第1・2回の委員会では、学校の自己評価を、適切に評価されているかという点で評価していただくことをお伝えした。さらに、自己評価書の項目・構成等についても、評価者としてのご意見をいただいた。

3月には、校内の年度末学校評価の結果も踏まえ、次年度への改善の見解をいただく予定である。

Ⅲ 学校評価の年間の流れ

期	節	月	自己評価				学校関係者評価
			学校(教職員)	児童	保護者	地域	
前期	『知る』期	4	児童の実態を『知る』 学年学級経営案作成	『知る期』のめあて 標準学力調査(学力・生活状況調査)	休日参観懇談 家庭訪問 学校教育説明会①		□学校関係者評価委員会の組織
		5	1年生を迎える会での育ち評価 運動会での育ち評価	運動会のめあて 運動会振り返りカード	1年生を迎える会公開 懇談 地域合同防犯・集団下校訓練 保護者・地域参加型運動会		
	『動く』期	6	□節学校評価会① ・子どもの実態課題の共有 学級経営案自己評価修正① 遠足での育ち評価	『動く期』のめあて □あったか週間(生活の見直し)①	動く期始め式公開		
		7		『自分(のがんばり)しらべアンケート』実施 ↓ 1学期の振り返り 夏季休業課題決定	学力調査結果 ↓ 個人相談会①		
		8	□拡大企教検 ・自己評価書評価項目の設定 ・学校関係者評価書案作成 夏季休業での育ち評価	夏休みの振り返り 2学期『動く期』めあて修正	夏季休業		
9	(子どもの育ちを見取る週間)	『知る期』『動く期』の振り返り 前期通知表	参観懇談		□学校関係者評価委員会① ・学校関係者評価書案検討		
後期	『創る』期	10	□節学校評価会② 学年学級経営案自己評価修正②	『創る』期のめあて 創る期始め式での交流 □あったか週間(生活の見直し)① 学習発表会のめあて	休日参観公開 創る期始め式公開 学校教育説明会②		
		11	学習発表会での育ち評価 □拡大企教検 ・年度末学校評価計画	学習発表会振り返りカード	学習発表会公開 『保護者アンケート』実施		
		12	(子どもの育ちを見取る週間) □節学校評価会③ 学級経営案自己評価修正③	『自分(のがんばり)しらべアンケート』実施 ↓ 2学期の振り返り 夏季休業課題決定	『保護者アンケート』の結果 ↓ 個人相談会②		
	『ありがとう』期	1	□拡大企教検 ・学校評価資料作成 冬季休業での育ち評価	冬休みの振り返り 『ありがとう期』めあて □あったか週間(生活の見直し)③	卒業学年参観懇談		
		2	□年度末学校評価会 □節学校評価会④ ○自己評価書の作成		6年生を送る会公開 学校教育説明会③		□学校関係者評価委員会② ○学校関係者評価書作成
3		6年生を送る会での育ち評価 学年・学級経営自己評価④		子どもの育ちを見る参観懇談 後期通知表		自己評価書及び学校関係者評価書のホームページでの公表	

IV 学校評価の方法

年間を通したPDCA
サイクルの定着

自己評価の有効性の
意識化

1 自己評価

(1) 項目の設定

教育活動全体を、総合的に点検し、課題を明らかにしていくためには、ある程度の項目の細分化が必要になる。しかし、細分化するにつれ、評価そのものにかかる作業量も増えてしまう。このようなとき、評価が効率的に機能し、評価作業の負担に見合う教育活動への改善の効果が実感できなくてはならない。本校では、評価に求めるねらいごとに、評価項目の細分化と重点化を使い分けるようにしている。例えば、年度末評価に代表される学校運営全体を対象とした評価では、具体的な方法・手段に対する評価まで範囲を広げ、それらの評価の結果を総合的に判断することで学校としての重点課題を明らかにしていくようにしている。ねらいを限定した行事や各種指導等の評価では、設問を重点化し、評価そのものを部分に限定して実施する等の工夫をしている。

(2) 学年・学級経営での自己評価

二期四節の流れを基本として計画を立て、節ごとのPDCAサイクルを確立させ、学年・学級での年間の教育活動が、目指す子どもの姿に向けて発展的に展開されていくことを目指している。

そのために、学年・学級経営案を一新した。節ごとに、重点化した取り組みを明記し、その成果を子どもの育ちの具体で評価し、次節への課題として追記していけるように項目を設定した。使用にあたっては、学年・学級で、課題を意識した取組が持続できるよう、節ごとに評価を集約し提示するようにした。さらに、節学校評価会での評価交流を通して全校での共通理解と課題の共有化を図るようにした。

自己評価の基準となる課題の設定については、基本的に学年主導で設定し、取組に対する評価が直接反映されるようにした。本校として求める子どもの育ちに対する評価については、節学校評価会で学校課題との関連を整理し、学年・学級ごとの取組に戻せるようにした。

(3) 児童・保護者アンケートの実施

児童のアンケートは、7月と12月、ともに長期休業前に実施した。自己評価の結果を、短期的には長期休業中の自らの課題の明確化につなげるようにした。長期的には半期の自らの学校生活を振り返る材料として活用し、自らの変化・成長を客観的に考えられるようにしている。

この結果については、長期休業前の個人相談会で保護者とも共有し課題を明確にし、学校と家庭両面での支援体制づくりへとつなげている。

保護者アンケートについては、12月に実施している。評価項目については、児童アンケートと共通化を図り、児童とのとらえの違いを見とれるようにし、双方の立場から互いの願いや問題点を評価し合えるようにしている。アンケート結果の集計・分析においても、問題点を新たな目標となるように評価し提示している。

児童・保護者アンケートともに満足の程度を評価できる評価項目とし、改善への意欲の向上につなげていけるように考えている。具体的な願いや要望を知るためには、記述による集約のほか、直接お聞きできる機会を大切にしている。素早い対応が何より大切だと考えているからである。

(4) 結果の集計と分析・自己評価書の作成

学年・学級経営での自己評価、児童・保護者アンケートの集計と分析は、教務部門の担当者が中心となり、関連する部門と連絡調整をとりながら進めている。その結果については、学校評価会や職員会議で報告される。自己評価書については、各評価の内容の関連を検討整理し、企画教育課程検において作成している。

2 学校関係者評価

(1) 学校関係者評価委員の構成と役割

本校の教育活動と子どもの育ちを、学校行事等への参加や、地域での日常的なかかわりの中で直接的間接的に見ていただいている方、また、客観的専門的な立場から評価していただける方の参加を考え、学校評議員の方々を中心に構成している。本年度は、校区内各町内会会長3名、校区在住元学校関係者1名、前PTA会長、現PTA会長の6名で構成した。

(2) 学校関係者評価書の作成

学校関係者評価書の作成に当たっては、学校関係者評価委員の方々、年間を通した本校とのかかわりの中で、具体的な姿として得ている情報をもとに、評価し判断できる項目となっていることを重視し作成した。項目数も取組や成果が見とれやすい4分野18項目に精選した。

また、評価内容についていただく説明も大切にしている。評価に込められた期待や願いを、会話の中からも受け止め、教育活動の改善へ繋げていこうと考えている。

V 評価結果の公表

双方向の交流を期待
しての公表方法の多
様化

1 公表の方法

本校においては、二期四節の教育推進サイクルに合わせ、各評価が教育活動に効果的に生かされていくよう、以下のような機会・方法で公表を行っている。

また、公表が一方通行に終わらず、内容に対する評価の受けとりやすさも考慮している。

- ・学校教育説明会（10月）、学校教育説明会（3月）
- ・個人相談会（7月）、個人相談会（12月）
- ・学校だより
- ・保護者アンケート結果説明資料
- ・学校ホームページ

2 公表の効果

多様な場で公表すること、直接説明したり意見をお聞きできる機会を多くすることを通して、教育活動への理解が深まるともに、保護者、地域の願いや要望が、学校改善につながっていくことが徐々に理解されてきている。

VI 成果と課題

成果としては、評価のPDCAサイクルが、日常の教育活動の中で教育活動の改善につながる有効な手段であることが確かめられ、意識されるようになってきた。

また、評価は、ねらいに対する達成度で図られるということが改めて問われた結果、教育活動を計画実践する際、目的に対して適切な計画であるかを意識し取り組むようになった。

評価のための評価に陥ることなく、改善と評価を一体のものとして教育活動の推進につなげていく一つの方向が確かめられた。しかし、学校運営全体を総合的にとらえ、改善の方向性を明確にしていくためのシステムとしては、まだ十分機能していたとはいえない。保護者に対する説明責任を果たし、ともに育む信頼関係の構築に向けてはこの点が課題であると考えている。

【参 考 文 献】

- ・「学校評価ガイドライン」 文部科学省
- ・「札幌市の学校評価」 札幌市教育委員会

自己評価機能を効果的に生かすための 学年・学級経営案

<資料1>

平成20年度 学年経営案

知る期		働く期				創る			ありがとう期		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
行事・校外学習・様々な機会や場											
運動会		ふれあい学習		プール学習		学習発表会			卒業式		
<p>学級経営案が一人一人の表情を思い浮かべて作成するものとするれば 学年経営は『豊かな心・確かな学び』に迫るための経営計画として、 前田北の〇学年として目指す姿を思い浮かべて 総合的に 立案してください。</p>											
求める子ども・目指す子ども						子どもの育ち					
<p>前田北小学校の〇年生としてつけたい（つけるべき） 力・態度 育てたい 心情 など 発達段階も考慮に入れて</p>						<p>◆節ごとの『振り返り』の記述については、学級経営の評価で代表して いただき、学年経営としては学年末にまとめてもらいます。 ◆学年としての子どもの育ちについては、前学校評価会で、話題とし取 り上げ、共通理解できるものを書えていくようにします。</p>					

平成20年度 学級経営案 年 組 担任

学級目標(年間)					学級スタート時の実態(課題のもととなる学級の個性)						
節の始めに決まっていなければ、 終りに記入してください。					4月のスタートとなる子どもの姿 長所・短所(課題のもととなるべき)						
学級目標											
知る		働く				創る			ありがとう		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
育てたい心・態度・力【中間点まで】		知る期の子どもの育ち・課題(6月)				働く期の子どもの育ち・課題(10月)			創る期の子どもの育ち・課題(1月)		
<p>学級経営は 一人一人の子ども達の顔を思い浮かべ、 この子達の 何のために 何を どうすると 一緒に過ごす姿を 具体的に 立案して行きましょう。そのことについて 節ごとに、具体的に『振り返り』をしていきます。</p>											
取組・重点(生活の場・学習の場)		取組・重点				取組・重点			目指す姿【ゴール】		
<p>具体的に 【例えば 何で、何を、どのようにする…】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全員遊びを工夫し、「みんなで遊べるクラスになりたいな」という気持ちを持たせる。 ○学習準備を意識化して、時間を守るために工夫してたり考えたりするようにする。 ○廊下での悪いこと 									<p style="font-size: 2em;">各節ごとに 追記していきます。</p>		

平成20年 自己評価及び学校関係者評価書

平成20(2008)年10月 4日
札幌市立前田北小学校

<資料2>

1 本年度の重点目標

豊かな心 確かな学び

2 本年度の経営方針

『3つのとことん』を取り組みの柱として学校課題のさらなる達成を目指す
～よりあったかい～◇「子どもにとことん」◇「教師同士でとことん」◇「保護者ととことん」

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

【評価】◎大変よい状況である ○よい状況である ×今後とも努力が必要

Table with columns: 分野, 評価項目, 自己評価 (達成状況, 改善の方向), 学校関係者評価 (自己評価の適切さ, 保護者の適切さ). Rows include 重点目標, その他のご意見, 学習指導, その他のご意見.

よりより自己への意識を引きだす
児童・保護者アンケート

～よりよい学校(子ども達の幸せづくりの場)とするために～
アンケートのお願い

【記入方法】

下記の項目ごとに、3・2・1の順に○印をお付けください。○印をつけるための評価基準は、下記の通りです。よろしければ、お子さんの学年・組、お名前をご記入ください。

3 → よい, 2 → おおむねよい, 1 → 当てはまらない方が多い、改善してほしい。 年 組 お名前

★ご家庭からみた、お子さんの様子についてお伺いします。★

Table with columns: ご評価いただく項目, 3, 2, 1. Items include: 基礎的・基本的な学習内容の定着が図られていますか, お話の聞き方や話し方は身に付いていますか, 友達と仲よく学校生活を送っていますか, etc.



7月のじぶんしらべアンケート

Main survey form with questions like '①宿題の勉強をがんばっていますか?' and '②家族の勉強をがんばっていますか?' with response options.

※他にお気づきの点がありましたら、ご記入ください